

パラナ州概観



イグアスの滝

令和 5 年 12 月
在クリチバ日本国総領事館

1 通史

(1) 1630～40年頃、当時のサンパウロ州イグアペ(現在のパラナ州パラナグア市)の海岸山脈から流れる川で砂金が発見され、金採掘の集落が生まれた。集落への食料供給のために高原地帯で始まった牧畜の中心地が「クリチバ」(先住民の言葉で「松の実が多い」の意)と呼ばれ、発展した。

(2) その後、牧畜とマテ茶の生産で奥地への植民が進み、1853年12月にサンパウロ州から分離してパラナ州(「パラナ」は先住民の言葉で「海のような大河」の意)が誕生し、クリチバ市が州都となった。以来、クリチバ市は、ブラジル南部の政治、経済、文化等の中心地として発展している。

(3) 1929年、英資本「北パラナ土地会社」が設立され、肥沃なテラ・ロシャ(火山岩が劣化して形成された赤色の土壌)で知られる北パラナ地方一帯の土地の分譲が進み、移住者が大量に流入したことで、コーヒー及び綿花の栽培が発展した。

(4) その後、1950年代に州南西部の開拓が進み、大豆、小麦、トウモロコシ等の栽培が盛んになり、ブラジル有数の農業生産地帯に成長。1970年代以降は、州都クリチバ市の工業団地建設により企業誘致が進み、ボルボ、シーメンス、ボッシュ等のグローバル企業に加え、古河電工、日本電装(現デンソー)等の日本企業も進出。

(5) 1990年代に入ると、ルノー、フォルクスワーゲン／アウディ等の自動車メーカーが相次いで進出。ルノーと提携関係にある日産も2000年5月に進出したほか、2012年に住友ゴムも進出した。パラナ州は農業と自動車業を両輪として発展してきたと言える。

ブラジルにおけるパラナ州



2 地理

(1) パラナ州はブラジル南部に位置し、サンパウロ州の南、サンタ・カタリーナ州の北に位置するほか、パラグアイ及びアルゼンチンと国境を接する。

(2) 面積は約20万Km²(日本の約半分)で、その大半が海拔600m以上。最北端から最南端までの距離は468km、最東端から最西端までは674km。

(3) 世界的な観光地であるイグアスの滝(「イグアス」は先住民の言葉で「巨大な水」の意)は、パラナ州を横断するイグアス川(全長1,320km)とパラナ川が合流する15km手前にある。滝の幅は約4km、最高落差は90m、水量は毎秒約11,000m³と世界最大。イグアスの滝が所在するフォスドイグアス市には、ブラジルとパラグアイが共同管理するイタイプ水力発電所があり、同発電所の発電能力は世界第2位(69,873MW)で、ブラジル全体の消費電力の約10%、パラグアイの消費電力の約85%の電力を供給する(「イタイプ」は先住民の言葉で「歌う石」の意)。

3 気候

パラナ州は、南回帰線が北部を横切り、州面積の約半分が海拔600m以上の高原であるため、北部～西部、海岸平野が熱帯性気候、中部が亜熱帯性気候、南部が温帯性気候という分類になっている。

州都クリチバ市は温帯性気候郡に属するが、夏季の平均気温は22度、冬季の平均気温は14度と寒暖差が大きい。また、海拔900メートル超の高地に位置することもあるため、「1日に四季がある」と喩えられるほど天候が変わりやすく、冬期には気温が一桁台まで下がることも多い。

【参考：年間気候(気温:℃、湿度:%、降雨量:mm)(パラナ気象庁、2022年実績)】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均最高気温	27.6	28.7	26.5	23.4	20.8	19.2	23.2	19.3	18.4	23.9	21.8	25.4	23.1
平均最低気温	17.8	17.8	17.6	14.3	10.8	10.2	11	10.1	10.4	13.8	13.0	16.5	13.6
平均気温	21.4	21.9	21.1	17.8	15	14.1	16.5	14.2	13.9	17.5	16.7	20	17.5
平均湿度	84.2	79.7	85.3	86.6	81	82.9	75	83.2	86.2	83.7	79.4	82.1	82.4
降雨量	194.2	101.2	203.2	87.4	135	116.6	22.4	125.4	174	140.6	166.4	163.2	135.8

4 政治

(1)体制

州知事 (Governador) :

カルロス・ロベルト・マッサ・ジュニオール (42歳) (通称「ラチーニョ」)

2019年1月～現在。2023年1月から2期目 (任期は4年、連続再選は二度まで)。

社会民主党 (PSD) 所属。ルシアナ・サイトウ夫人は日系三世。

州議会 (Assembleia Legislativa do Paraná) :

一院制。54名の州議会議員が所属。州都クリチバ市に所在。

アデマール・トライアーノ州議会議員 (PSDB) が現議長。

(2)パラナ州出身の主要な連邦議員

パラナ州出身の連邦議員は、下院議員が30名、上院議員が3名。

ブラジル日本議員連盟会長のルイス・ニシモリ下院議員 (マリンガ市、PSD 所属) もパラナ州選出。同議員は、パラナ州の関係者を伴い、経済友好ミッションでほぼ毎年訪日している。

2023年から、セルジオ・モーロ元法務・治安大臣 (クリチバ地方裁判所判事時代に大規模汚職捜査「ラヴァ・ジャット」を担当) が上院議員を務めている。

(3)主要都市

パラナ州には399の市 (Municípios) が所在。主要都市の市長は次のとおり。

・クリチバ市	ラファエル・グレッカ市長 (PSD)
・ロンドリーナ市	マルセロ・ベリナッティ・マルティンス市長 (PP)
・マリンガ市	ウリセス・マイア・コツィファス市長 (PSD)
・フォスドイグアス市	シコ・ブラジレイロ市長 (PSD)
・カスカヴェル市	レオナルド・パラニョス・ダ・シルヴァ市長 (PSC)

★タマラーナ市、カルロポリス市、カフェランジア市等計7市で日系人が市長を務めているほか、クリチバ、マリンガ、ロンドリーナ等に日系市議がいる。

5 経済

(1)主要産業

パラナ州の経済はマテ茶の生産から始まり、マテ茶を入れる箱を作るために木材産業が発達。また、マテ茶の銘柄を印刷するために印刷業が発展し、印刷業もブラジル第3位の産業となっている。70年代からはトラックとバスの生産が始まり、今日では

ブラジル第4位の生産を誇っている。90年代には乗用車の生産も始まり、最近では部品産業も多数進出。

主要産業は、農牧畜業、自動車、輸送、アグロインダストリー(食料産業を含む)、バイオテクノロジー、化学(化粧品、薬品など)、IT、エネルギー等。州内GDPの構成は、農業が9.5%、行政が13.5%、工業が25.2%、商業・サービスが51.9%(2019年実績)。

パラナ州経済においては、伝統的に農牧畜業が重要な地位を占めている。穀類、絹、小麦、キャッサバのデンプンの生産が全国第1位、大豆、トウモロコシ、マテ茶、牛乳が全国第2位、砂糖が第3位で、約4000社が約20万人の雇用を生んでいる。中心地はマリンガ、ロンドリーナ、クリチバ、ポンタグロッサ、カスカヴェル、トレド等。牧畜では鶏肉が第1位、豚肉が第2位。畜産では、鶏肉が国内の30%、牛肉が4%、豚肉が19.7%を生産しており、これら産物は、パラナ州東部パラナグア港から輸出される。パラナグア港は、サンパウロ州サントス港に次いでターミナル取引の多い港であり、2020年5月時点で約570万トンを記録。現在、同港ターミナル会社は中国資本の出資が9割となっている。

【参考: 主要な経済指標】

GDP: 約5,500億レアル、ブラジル5位 (2021年、伯国地理統計院: IBGE)。

経済成長率: 6.1% (2021年、IBGE)

失業率: 4.9% (2021年、IBGE)

(2) その他の特徴

パラナ州は生活水準が高いことでも知られ、人間開発指数はブラジル有数の0.749。パラナ州の戦略は、労働力の質の向上を通じて生産性と生活水準を上げ、それによって産業の発展を図ることとされる。最近5年間で400億レアルの投資を獲得しており、成長幅の大きな州でもある。パラナ工業連盟(FIEP)は、質の高い労働力が豊富にある点をパラナ州への投資の最大の理由の一つに掲げている。

エネルギー分野でもパラナ州は恵まれている。世界最大の電力生産量を誇るイタaip発電所は、ブラジルの総電力の8.4%、パラグアイの総電力の85.6%を生産(2021年)。電力の配給はパラナ電力公社(COPEL)が行っており、ブラジルで最良の電力配給会社の一つとされる。通信分野では、州全体が光ファイバーでカバーされており、COPELがその責任機関である。ガスは、2000年のボリビア・ブラジル・ガスパイプライン(GASBOL)の開通により天然ガス利用が拡大した。現時点では、GASBOLの活用はクリチバ周辺に限られているが、液化天然ガスや圧縮天然ガスの供給増加やパラナ州内の天然ガス開発のコンセッションによりガス供給の拡大を図っているほか、メタンガスプラント建設による共有計画がある。

(3)貿易

■輸出総額:221億米ドル(2022年、ブラジル経済省)

(主要輸出品目:大豆穀粒、冷凍鶏肉、大豆滓、砂糖きび由来加工品、大豆油等)

■輸入総額:224億米ドル(2022年、ブラジル経済省)

(主要輸入品目:ディーゼル油、塩化カリウム、太陽光発電パネル、殺虫剤、尿素等)

【参考:過去5年の貿易総額推移】

	輸出額	輸入額	貿易収支
2018年	19,902,712,764	12,379,167,798	7,532,544,966
2019年	16,454,197,120	12,695,474,202	3,758,722,918
2020年	16,255,783,066	11,877,651,843	4,378,131,223
2021年	19,034,416,232	16,972,302,424	2,062,113,808
2022年	22,124,857,720	22,404,843,991	▲279,986,271

■主な貿易相手国(2022年、ブラジル経済省)

	輸出(単位千ドル)		輸入(単位千ドル)	
1位	中国	3,633,576	中国	5,793,747
2位	米国	1,696,986	米国	2,745,859
3位	アルゼンチン	1,483,543	アルゼンチン	1,056,513
4位	メキシコ	781,510	インド	933,576
5位	インド	746,173	ドイツ	931,534
12位	日本	544,514		
17位			日本	373,376

6 日本との関係

(1)日本人移住者

パラナ州には、サンパウロ州に次ぐブラジル第2位の日系社会(約15~20万人)が存在。1910年代にサンパウロへの移住者がパラナ州に入植をはじめ、現在までに、政財界、医療、司法、農業等の各界で活躍。州都クリチバ市を含む南部や北部~西部に大型の日系社会が存在。

(2) 要人往来

【皇室の御訪問】

1958年 (日本人移住50周年)	三笠宮殿下御夫妻
1978年 (日本人移住70周年)	皇太子同妃両殿下(現上皇皇后両陛下): マリンガ、ロランジア、ロンドリーナ御訪問
1982年 (伯大統領の招待)	浩宮殿下(現天皇陛下):マリンガ、ロランジア御訪問
1988年 (日本人移住80周年)	礼宮殿下(現皇嗣殿下):ロランジア、ロンドリーナ御訪問
1997年6月 (日伯両国親善)	天皇皇后両陛下(現上皇皇后両陛下):クリチバ御訪問
2008年6月 (日本人移住100周年)	皇太子殿下(現天皇陛下): ロンドリーナ、ロランジア、マリンガ御訪問
2015年10～11月 (外交関係120周年)	秋篠宮同妃両殿下(現皇嗣同妃両殿下): ロンドリーナ、カンベ、ロランジア、マリンガ及びクリチバ御訪問
2018年3月 (世界水フォーラム)	皇太子殿下(現天皇陛下):ブラジリア御訪問
2018年7月 (日本人移住110周年)	眞子内親王殿下(当時): ロンドリーナ、ロランジア、マリンガ御訪問

【政府要人の訪問・視察】

1996年8月	橋本総理大臣:フォスドイグアス視察(中南米5か国訪問)
1998年6月	小渕外務大臣:ロランジア訪問(日本人移住90周年)
1998年11月	真鍋環境庁長官:クリチバ訪問
2004年8月	小渕衆議院議員他:フォスドイグアス視察 (衆議院各国議会制度調査)
2005年5月	河井外務大臣政務官:フォスドイグアス視察(米州議連総会)
2006年8月	扇千景参議院議長:フォスドイグアス視察
2008年1月	木村外務副大臣:クリチバ訪問
2008年8月	玉澤特派大使:フォスドイグアス視察
2013年8月	三原衆議院議員一行:フォスドイグアス視察
2015年2月	宇都外務大臣政務官:フォスドイグアス視察
2017年7月	細川農水大臣政務官:フォスドイグアス視察
2018年7月	笹川環境大臣政務官:フォスドイグアス視察

2018年9月	谷合農水副大臣、岡本外務大臣政務官他議員団： フロリアノポリス訪問（第67回IWC総会出席）
2019年7月	勝俣環境大臣政務官：フォスドイグアス視察
2019年11月	北岡JICA理事長：フォスドイグアス視察
2019年12月	尾身外務大臣政務官：フォスドイグアス視察
2020年1月	山東参議院議長他議員団：フォスドイグアス視察
2022年12月	小渕優子特派大使（大統領就任式）：クリチバ訪問

(3) 姉妹都市・州県提携

調印年月日	姉妹都市・州県
1970年5月4日	パラナ州—兵庫県
1973年7月2日	マリンガ市—兵庫県加古川市
1977年5月11日	ロンドリーナ市—兵庫県西宮市
1981年5月13日	アシスシャトブリアン市—宮城県柴田町
1984年5月14日	クリチバ市—兵庫県姫路市
1986年5月29日	パラナグア市—兵庫県淡路市
1998年8月11日	ロンドリーナ市—沖縄県名護市

(4) 日本企業進出・対日貿易

進出日本企業は計51社（2022年10月当館調べ。移住者が起業した会社も含む。いわゆる進出企業は約20社）。製造業（自動車製造業、電気機器製造業）及び卸売・小売業の進出が多い。

★対日輸出：5.4億ドル（2022年ブラジル経済省発表）

冷凍鶏肉、とうもろこし、大豆粕・大豆油、コーヒーエッセンス等。

★対日輸入：3.7億ドル（2022年ブラジル経済省発表）

車両部品、モーター部品、大型車両ゴム、鋼等。

(5) 在留邦人

在留邦人は2,976人（2023年10月当館調べ）。永住者2,854人、長期滞在者122人。

7 治安情勢

パラナ州はブラジルの中では比較的に治安の良い州ではあるが、軽犯罪は多く、一定数の殺人犯罪件数もあることから、日本人旅行者や滞在者が注意して生活すべきことは言うまでもない。特に夜間の徒歩移動は極力控えるべき。

【参考：主要都市の年間犯罪件数（パラナ州公安局発表、2022年）】

	一般犯罪	殺人	窃盗	強盗	車両盗難	車両強盗
クリチバ市	33,559	277	52,364	9,313	3,718	669
ロンドリーナ市	13,558	68	10,824	1,610	668	142
マリンガ市	13,221	42	13,725	1,501	1,098	212
フォスドイグアス市	10,243	83	5,970	1,342	560	213
カスカヴェル市	11,824	69	7,537	737	773	106
ポントグロッサ市	15,106	74	9,747	1,608	534	140
パラナ州全体	229,726	2,025	176,134	25,499	12,763	2,900

8 パラナ州の特徴

(1) 環境都市

州都クリチバ市は、1970～80年代にかけて、レルネル市長（当時）の下、環境保全を重視した都市計画を採用。リサイクルの徹底、BRTシステム（2両～3両連結の高速バスの専用道、チューブ型バス停）の導入等が進み、環境都市として成長（1990年には国連が表彰）。クリチバ市の総面積は435km²、市内には26の公園がある。緑地面積の合計は約8,100万m²で、市民一人当たりの緑地面積は64.4m²に及ぶ（WHO奨励値は一人あたり16.0m²）。



BRT システム

(2) 文化都市

クリチバ市内には、図書館、映画館、文化施設、アートギャラリー、美術館、劇場等が多数あり、多くの文化イベントが日常的に開催されている。毎年1月には「クリチバ国際音楽祭」（2020年にはアジア唯一の参加者として尺八演奏者の黒田鈴尊氏が参加）、3月にはクリチバ市生誕を記念する「クリチバ演劇祭」等が開催されるほか、秋

から冬には、映画祭、グルメフェア、民族舞踊祭など多数のイベントが開催される。



クリチバ国際音楽祭(2020年1月)

(3)学園都市

クリチバ市には、1912年にブラジル初の連邦総合大学として開校した「パラナ連邦大学」のほか、連邦技術大学や、私立名門校として知られるパラナ・カトリック大学等の総合私立大学が4校、単科大学が約40校所在。州の教育水準はブラジル有数と言われる。

(4)移民都市

パラナ州には、ブラジル第二の規模を誇る日系社会に加え、欧州系移民も多く在住。推定人数は、伊系(約240万人)、独系(約140万人)、ポーランド系(約100万人)、ウクライナ系(約35万人)、日系(約15万人)、アラブ系(約15万人)の順(ブラジル地理統計院、2010年国勢調査)。クリチバ市の日系社会は、「花祭り」(3月)や「移民祭り」(6月)等のイベントを例年開催し、州の重要文化イベントとなっている。



日本文化イベント「Nipofest」(2020年3月カスカヴェル市)

(5)ラヴァ・ジャット捜査発祥の地

クリチバ市は、高等教育、司法制度、行政など、多くの分野でブラジル最高水準を誇ると言われるが、2010年代にブラジル国内外を巻き込み世界的に著名となった大規模汚職対策「ラヴァ・ジャット捜査」もクリチバ市が発祥。同捜査は、連邦検察庁パ

ラナ支部の特捜部が実直なクリチバ地方裁判所判事と連携して実現し、大きな成果を上げたことで知られている。



連邦検察庁パラナ支部

(6) ブラジル随一のスマート・シティ

クリチバ市は 2007 年に開発・イノベーション局を発足させ、企業の革新的な取組の支援や官民連携の推進を図っているほか、同局が立ち上げた「Vale do Pinhão」プログラムは、持続可能な開発に資する企業活動を表彰する等している。州開発・イノベーション局が進めるスタートアップ助成プログラムにより、新しい形態の企業活動が生まれ、Olist(エコマース)、Contabilizei(バーチャル会計事務所)、Pipefy(ビジネス・マネジメント)、オンライン銀行(Ebanx)、バーチャル家具販売店(MadeiraMadeira)等が誕生している。2020 年、クリチバ市は、Global Startup Ecosystem Report 2020 において、革新的なエコシステムを有する世界トップ 100 の都市として、ブラジルから唯一ランキング入り。2021 年4月には、ICF(Intelligent Community Forum)から4年連続でインテリジェント・シティに選出されている。近年は、Smart City Expo Curitiba や Smart City Business América Congress & Expo を毎年主催しているほか、2023 年 11 月に Smart City Awards を受賞した。



(了)